



山法師

寒河江中部小学校

学校だより

令和8年10月20日

校長 佐藤 匡一

自然災害に備えて避難訓練！



廊下の状況



グラウンドの状況

2026年においても、熊本地震、台風、千葉豪雨等、多数の自然災害が発生し、たくさんの方が亡くなりました。また、今でも避難を余儀なくされている地域があります。心よりお悔やみを申し上げます。そして、被災されている皆様の安全と一日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

気温や降水量など、観測史上初というデータを耳にすることが多くなった昨今、これまでの経験知では予測できない災害が頻発している気がします。先日、全国連合小学校校長会研究協議会で千葉豪雨と印旛沼崩壊で被災されている千葉県の校長先生と同席する機会がありました。そこで、その校長先生から、「土地の標高が低い・高い、河川の近くである・ないとかは関係なく、浸水被害が発生している。ハザードマップが参考にならない状況だった。」というお話を聞きました。

学校では、児童・生徒の安全の確保を図るため、実情を踏まえて危険発生時対処要領（危機管理マニュアル）を作成し、随時見直ししながら職員に周知し、児童たちと訓練を行っています。

日本は地震大国であり、現在の科学的知見からの地震予知は困難と言われています。つまり、いつ・どこで起こるかわからないのです。尚且つ、地質構造や歴史の変遷からみれば、地震は必ず起こると考えられています。学校では、地震発生時の避難訓練を予告なしで実施することがとても大切です。今年度、9月16日（水）に予告なしの避難訓練を予定していましたが、雨の影響により9月30日（水）の中間休みに変更しました。16日の訓練に薄々感ずいていた児童たちは、予想していない日の訓練に驚いていたようでした。中間休みに地震発生時の訓練放送を入れた瞬間、校内にいる児童たちは戸惑いながらもその場で頭・首を押さえてうずくまる姿勢（ダンゴムシのポーズ）になり、外にいる児童たちはボール遊びを止め、「小さくなれ〜！」、「腰をおろせ〜！」、「低くなれ〜！」と声を掛け合い、姿勢を低くしていました。

今年も4年生が山形県庁と山形市防災センターを訪れました。そこで、防災に大切なこ

とは、「知る・備える・実践する」という3であると教わってきました。また、体験ブースで地震体験をしてきました。今回の避難訓練でその経験が生かされていると感じました。3年生以下でも、見本となる先輩の姿と学級指導のおかげで、身を守る行動ができていました。しかし、これで十分ということはありませんので、保護者や地域と連携しながら災害に備える必要があります。例えば、グラウンドに避難した後に校舎に戻ることができるのか？という問題があります。火災や大規模災害の場合は、グラウンドから違う場所へ移動することも考えられます。つまり、2次避難場所の確保です。これから、地域の方と保護者代表を委員とする学校運営協議会を開催しますので、そこで協議を進めていきたいと思います。



困っている人を助ける！ 胸を張って言えます。

寒河江中部小学校をよりよい学校にしていくためには、児童一人ひとりが、学校の一員として、自主的・自立的に活動していくことが大切です。本校では、やまぼうし委員会を中心として、計画委員会と各委員会、学級会、縦割り班会という組織をつくり、自分の役割を考えながら活動に取り組んでいます。やまぼうし委員は3年生以上の各学級より、男女各1名が選出されます。委員の活動を前期・後期に分けていますので、任期は半年間です。



10月8日（木）、前期の締めくくりとなるやまぼうし委員会がありました。そこでは、前期の成果と課題を確認し合っていました。大きな成果の一つとして、「困っていた人を助ける中部っ子！」が挙げられました。全国学力学習状況調査（対象：小学校6年生、調査期間：4/23～5/8）に、「人が困っているときは進んで助けていますか」という設問があります。その結果、助けていると答えている児童の割合が、県・全国より大きく上回っていました。困っている人を助けることができる中部っ子たちであると胸を張って言えます。

ありがとうございます！！

「ケアセンターとこしえ陵南」の方より、150枚の雑巾を寄贈していただきました。本校のために丁寧に縫ってくれました。掃除等で毎日使用しますので、不足しがちでした。とてもありがたいです。大事に使わせていただきます。

